

灰峰山西教寺本堂修復計画

基本設計書

平成 14 年 7 月 31 日

一級建築士事務所 洛 設計室

## 灰峰山西教寺本堂修復計画 基本設計書

### 目次

1	名称	2
2	所在地	2
3	現況構造形式	3
4	規模	3
5 - a	基本計画	4
- b	文化財としての考え方	5
6	概算施工費	6
7	工程表	7
8	修復概要図	8

1 . 名称 灰峰山西教寺本堂

2 . 所在地 広島県呉市長ノ木町16 - 10 西教寺境内

1 / 2 5 0 0 0

### 3. 現況構造形式

概要 桁行き7間、梁間6間、1重、入母屋造り、平入り向拝付、本瓦葺、化粧箱棟、西面する。

4. 規模	桁 行	身舎柱両端真々	13.56m ( 45.2 尺)
		外縁柱真々	15.72m ( 52.4 尺)
	梁 間	身舎柱両端真々	13.98m ( 46.6 尺)
		外縁柱真より後堂背面柱真	17.10m ( 57.0 尺)
軒 の 出		広縁柱真より茅負外下角まで	1.62m ( 5.4 尺)
		向拝柱真より茅負外下角まで	1.08m ( 3.6 尺)
		向拝柱真より縋破風外下角まで	1.38m ( 4.6 尺)
軒 高		柱礎石上端より茅負外下角まで	4.14m ( 13.8 尺)
棟 高		柱礎石上端より棟木上端まで	11.01m ( 36.7 尺)
平 面 積		広縁柱及び身舎柱真々内	202.52㎡ ( 61.26坪)
		落間、後堂、アイノ間、廊下他	101.39㎡ ( 30.67坪)
		合計	303.91㎡ ( 91.93坪)
軒 面 積		大屋根茅負外下角内	303.93㎡ ( 91.93坪)
		周囲下屋広小舞外下角内	98.12㎡ ( 29.68坪)
屋根面積		大屋根実葺面積	404.38㎡ ( 122.32坪)
		周囲下屋実葺面積	106.95㎡ ( 32.35坪)

## 5 - a 基本計画

本計画は以下の をその内容とする。 については別途とし除く。

### . 「主目的工事」

基礎・軸部工事 ・垂直・水平の補正、破損部分の改修、構造補強

屋根工事 ・屋根瓦の葺き替え

### . 「付随工事」

影響部工事 ・屋根下地、小屋組、軒周り、床・縁周り、壁の解体（一部半解体）と復旧、ならびに破損部分の修理

・設備関係の撤去と復旧

復原工事 ・文化財の観点からの一部復原

仮設、素屋根工事 ・安全対策等工事進行のための環境作り

### . 「その他工事」 （全体予算超過の場合、一部を将来に持ち越す）

建築 ・外・内装の整備 基壇廻り、床下叩き

建具、畳

その他

設備 ・防災 自動火災報知設備

（消防法；集会場延べ面積 300 m<sup>2</sup>で設置義務）

外構 ・建物周辺の整備

---

### . 別途工事 （今回事業予算に含まず）

装飾（荘厳） ・外・内陣境の建具・欄間

内陣・脇間廻りの壁装・塗装など

須弥壇・宮殿・脇厨子

建設事務費 ・事業事務費

・式典費用

## 5 - b 文化財としての考え方

本計画は、現状の軸部改修・屋根葺き替えを主目的とし、文化財としての観点による様式・技法等の復原などについては、今回行わなければその機会を失う部分にとどめ、その外は詳細調査を含め将来の課題とする。

その意味においても、破損などで取替えが必要な部材についてはその範囲を最小限にとどめ、同時に各所に見られる後世の改変時等に生じた痕跡については原則として全箇所手を加えずそのまま残す。

また今回の取替え・補足等に使用する材料については、焼印などにより明示した上で施工するとともに、取替えを行った旧破損材についても、将来の詳細調査のために保管場所を設け、可能な限り保存に努める。

修理設計・解体調査の方針策定は、市の文化財関係者の立会い・意見を受けながら進める。

